

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

6月、大町市で第26回全日本実年ソフトボール長野県大会・第19回長野県壮年ソフトボール大会が開催され審判員として参加する。ソフトボールのチーム

登録は、クラブチームや実業団チームなどの競技種別と大学チームや高等学校チームなどの学生種別とは別に、生涯スポーツに親しんでほしいとの趣旨で生涯種別として中学生・小学生、女子では50歳以上で編成するエルデスト、35歳以上で編成するエルター、15歳以上で編成するレディース、男子では40歳以上で編成する壮年、50歳以上で編成する実年、59歳以上で編成するシニア、66歳以上で編成するハイシニア、15歳以上で編成する一般男子、教員で編成する教員などでチーム編成され、それぞれが全国大

会を目指し大会を開催している。年代ごとに挑む目標があり、生涯スポーツとして親しんでいたが、種別競技でもある。だが、それぞれの大会を運営する県協会や地

さつ。スポーツ環境がコンパクトに整っていること、質の高い3200人を受け入れる宿泊環境、酒と温泉を代表する観光地の魅力などを盛り込んだ熱弁に、何時も聞き入って訪れる会場だ。ソフト

## 地域活性の戦略として、スポーツ基盤の活用が魅力的だと認識することが大切だ。

区支部の関係者の対応には、何時も感心するばかりだ。大会の会場の確保も重要。積極的に対応していただきたい。開会式を兼ねた監査会議には、欠かさず牛越大町市長が出席して歓迎のあい

まう。大町市を訪れる度に、各施設を利用する人員の多さに驚く。スポーツイベントに欠かせないのが、昼食用弁当や飲料の用意だ。関係者の悩みの一つで、関係者は前日から用意の段取

ボール専用グラウンドでナイターも完備。そして、ソフトボールに造詣の深さを感じる手づくり感が漂う施設内容。管理は、上二(かみいち)地区会。高橋正区長の取り組み意欲に、地区全体が協働しているとのこと。グラウンドは北沢学さんと牧野長政さんが活躍。地区では、他にも神社の管理や、ホタル観賞地の整備など多岐に及ぶ地域貢献活動などの話を宮原洋さんから聞くことができた。「大町市スポーツ推進計画」を実践することで、活力ある現場に出会えた一日でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



整備された上-グラウンドは、県内強豪チームの熱戦が展開され選手に大好評。